

第4回 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会 会議録（公開用）

日時：平成20年8月28日(木) 10:00～11:40

会場：鎌倉市役所 第二委員会室

出席委員：古谷委員長 中根副委員長 アルバレス委員 牧田委員 松尾委員
鷺尾委員

出席職員：相澤部長 池田課長 中野課長補佐 荻田主事 木田主事

傍聴者：1名

- 議事の概要：
- 1．開会あいさつ
 - 2．庶務事項
 - (1) 会議の公開等について
 - 3．審議事項
 - (1) 平成19年度評価報告書の内容等について
 - 4．その他
 - (1) 次回日程確認
 - (2) その他
 - 5．閉会あいさつ

1．開会あいさつ

委員会開会のあいさつと欠席した委員の確認を行った。

2．庶務事項

(1) 会議の公開について

事務局から資料の確認、傍聴応募者1名、前回の会議録の送付とホームページでの公開について報告を行った。

3．審議事項

(1) 平成19年度評価報告書の内容等について

事務局：

それでは、平成19年度評価報告書の内容等について、説明させていただきます。前回委員会では、資料として、平成19年度の実績概要<速報版>と<資料編>をご覧いただき、19年度の実績に対する全般的な評価を伺いました。

前回委員会でのご意見等は、事務局で集約し、お忙しい中、委員長、副委員長にも目を通していただいて、「資料2 進行管理状況評価報告書 20年度素案」として、まとめさせていただきましたので、後ほど、ご意見をいただければと思います。

その前に、資料1の平成19年度実績概要について、説明させていただきます。実績概要は、19年度の観光関連の取組みや統計データを集めたものになりますので、前回の速報版では、データの間に関わなかった「アクションプラン」などの取組み状況を追加す

る形で、まとめました。

前回以降追加したものとしては、まず、2ページの下段に、19年度の個別事業の特徴的な部分として、公衆トイレの整備、観光案内所のリニューアルなどについて掲載しました。

次に、6ページをご覧ください。平成20年度の取組みとして、この5月に推進本部が決定した取組み方針を追加して掲載いたしました。これは、今年3月にこの委員会からいただいた提言を受けて、推進本部として、この平成20年度をどう取り組んでいくか議論していただき、取組み方針として決定されたものです。

内容としては、20年度は推進体制が整い、具体的な取組みがスタートする年であること。鎌倉まつり、花火などの主要観光行事は、周年行事として節目の時期を迎えること。委員会からの4つの提言を受けたこと、などから、本部としては、「広報活動の充実」を最重要課題として認識し、市民や関係者などに計画の趣旨や目標、取組み状況を理解していただけるよう具体的な活動を実施していくとしています。

重点施策としては、(1)シンポジウムの開催、(2)本部活動の紹介パンフレットの作成、(3)イベント・広報活動の連携、さらに(4)個別検討部会検討事項の具体化に向けた検討などを実施していくこととしています。

次に28ページをご覧ください。アクションプランの進捗状況として、関係各課の事業の取組み結果と、今回から関係団体等の取組みについても紹介した一覧表を追加しました。

こちらについては、資料3として、29ページ以降の一覧表をA3に拡大したものを用意しましたので、そちらをご覧くださいと思います。昨年同様、3つの目標の項目ごとに、実施した事業の概要を説明していますが、今回から、ちょうど一枚目の一番上、左側に「関係団体等」と書いてある欄に、推進本部に参画している30弱の団体、関係機関に聞き取りを行った結果を掲載しました。したがって、この項目では、商工会議所の「鎌倉検定」やホスピタリティ推進運動の実施、鎌倉駅タクシー組合のタクシーの日の啓発と乗務員のマナー啓発などを行ったということで、掲載しました。そのほか、中段の「イ」に、鎌倉ビーチフェスタの開催やシルバーボランティアガイド協会による「古都鎌倉史跡めぐり」の実績などを掲載しました。実際には、まだまだ取り組みもあろうかと思いますが、今後、調査対象を個別イベント等の関係者に広げるなどして、充実していきたいと思います。その他、個別の事業実績については、説明を省略させていただきます。

以上が、実績概要の追加内容等になります。それでは、資料2の進行管理状況評価報告書をご覧ください。

表紙めくりまして、2ページをご覧ください。全体の構成は、前回と同じで、全体に対する評価、アクションプランに対する評価、そして、4ページになりますが、今後に向けての課題・提言と委員会活動実績という構成になっています。

ページ戻りまして、2ページの(1)19年度実績に対する評価ですが、こちらは、19年度が第2期基本計画の推進体制を構築することが第一の目標であったことから、推進本部や個別検討部会、及びこの委員会が設置されPDCAサイクルに基づく進行管理の体制が整ったことは、大変評価できるとしています。

目標指標に対する実績値に対しては、観光客、市民の満足度は、ともに高い傾向にあるが、「満足できない」理由の把握に努めることや滞在型観光を推進する検討が必要であることを述べています。

(2)アクションプランに対する個別評価 では、

まず、行政以外の取組みとして、商工会議所の観光関連産業調査や鎌倉ビジョン提言などを評価し、地域の活性化に繋がっていくとしています。また、行政の取組みの中では、1) 観光課HPアクセス数が伸びていること。2) 賃貸借方式という新しい方式で公衆トイレが設置できたこと。3) 観光案内標識の多言語化整備が進んでいること。などをあげさせていただきました。前回特にご意見が多かった文化施設の連携やパーク&ライドに関する広報などの充実等についても検討するよう盛り込みました。3ページの一覧表は、前回のご意見を各項目に貼り付けたものですが、先ほどの実績概要などを参考に、後ほど、ご意見を足していただければと思います。

4ページの(3)今後に向けての課題・提言 についてですが、こちらは、本日記りました前回の「評価報告書」を参考にしながら、ご覧いただければと思います。前回の提言は、今年の3月でしたので、前回の提言の骨子を活かしながら、追加等を行ったもので、アンダーラインが引いてある部分に変更・新たに追加した部分になります。

1. 市民の理解を深める取組みの充実 は、前回「1. 広報宣伝の充実」「3. 市民向けの鎌倉を知る機会の充実」として、個別に、鎌倉の良さや取組み内容について市民に知っていただくというとしていたものを、ひとつにまとめたもので、「住んでよかった、訪れて良かった」の基本理念を具体化させて行くという本筋を全面に出した表現となっております。2. 点から面への連携強化 については、基本的に継続ですが、文化施設の連携を官民連携で取り組むことによって、新たな回遊性を生み出すことになるので、何か工夫するよう追加しています。3. 各種統計データの充実 は、前回と同文で継続となっております。4. 情報共有と情報発信のシステム化 は、新たな項目で、市内のイベント情報が共有化されていない。地元発信の旅行業者がいないなどの現状から、情報を一元化する方法や情報発信のシステムについて、検討すべきとしています。5. 観光を横串とした地域連携の体制作り は、これも新たな項目で、今回から関係団体等の取組みを把握する動きを始めていますが、第2期基本計画が単なる行政計画ではなく、民間レベルの活動も含めた地域全体の取組みを対象にしていることから、観光を横串とした連携を図れる体制作りを観光協会などの既存組織が中心となって、早期に立ち上げるべきであるとしています。

以上が、評価報告書の素案となりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

委員長：

ありがとうございました。ただいま事務局からご説明がありましたが、この委員会のミッションは、鎌倉が取り組んでいる観光の内容について方向性を示していくということです。特に今日やるべきことは、資料1、3の「アクションプランの進捗状況」を踏まえて資料2の3ページ、「アクションプランのチェック結果について」の空白を埋めていく作業をしていきます。これに重点的に時間を取りたいと思います。そして、ある程度進んだら、次のページの「今後に向けての課題・提言」にブラッシュアップしていきたいと思います。

まずは、「アクションプランの進捗状況」を踏まえて、皆さんからご意見をだしていただきたいと思います、いかがでしょうか。

委員：

「目標2 伝統と快適性の調和した観光空間の実現」の「ア)」ですが、市の景観課で今年もいろいろな動きをしています。例えば、地下道のギャラリーで、良好な屋外広告物を

市民の方から募って、それを評価するというをやっています。また、小町通り商店街では、違法な屋外広告物の撤去キャンペーンを何回かやっていますので、そういうものを評価に加えるといいのではないのでしょうか。

委員長：

既に景観関係では市でも取り組んでいるところがあって、そこと連携して観光施策として何ができるか、より素晴らしい、豊かな観光空間をどう実現していくかということですね。

委員：

実際、電柱の地中化については、市のほうが取り組みをしていますけれども、それに連携して、特に小町通り商店街で、自主的に違法な屋外広告物の撤去の動きがあります。これによって、小町通りのまち並みが、より鎌倉らしい、より良好なものになっていくと感じます。取り組みとしては非常にいいのではないかと思います。

委員長：

市あるいは商店街が景観の保持に動いていて、それが評価できるけども、さらに加えて観光施策として一体化した取り組みを今後も進めていくべきだということですね。従来は小町通り周辺に進めてきたけれども、もう少し面的に広げていく取り組みも重要なのではないかという考え方ですね。

委員：

違法広告物の撤去や、市の景観課が主催して行っている看板のコンテストのようなものなどは市民を巻き込んでいる訳ですよ。その辺が評価できると思います。

委員長：

事務局から景観の取り組み等について補足することはありますか。

事務局：

景観のことを知らない市民の方の目に留まるので、非常にわかりやすいと思います。

副委員長：

従前から鎌倉市は、歴史的な資源を保護し大切にするという景観の施策に取り組まれていると思います。着実に綺麗になっていますし、それをさらに進めるというのは当然でしょう。また、広報宣伝の部分でも、「鎌倉の資源はすばらしい景観です」というのではなくて、鎌倉のまちが綺麗になったのを見てもらって、内外に知ってもらおうようなことが大事だと思います。既に景観に対する取り組みも広報しているのかもしれませんが、特に小町通りなど、たくさんの方がいるところで、これだけ綺麗にしようとか、あるいは綺麗になったとか、やっている、というのを是非PRされたいと思います。

委員：

チェックプランのどこに当てはまるか判断しかねますが、「資料1 平成19年度実績概

要」の51ページ、旅行業者のアンケート「質問2 宿泊および宿泊先の割合」で、鎌倉市内ではなく、横浜などの割合が高いというデータが出ています。これをどのようにアクションプランに応用できるか、どう改善していくかという対策も見えてこないのですが、このデータを何かの参考にできないものかと思います。

委員長：

鎌倉で観光客の動向調査を行うと、多くは横浜に泊まってそのまま帰ってしまう傾向があります。この表をみても、箱根が多いのは驚きましたが、鎌倉にはほとんど宿泊しないことがわかります。東京都からは、宿泊か帰宅かわかりませんが、宿泊とみれば都心部に宿泊していることとなります。

委員：

これは鎌倉が交通の便が良いということと、宿泊されないことが表裏一体の関係だからでしょう。

副委員長：

そもそも鎌倉市内の宿泊容量、つまり宿泊施設のベッド数が、他の観光地と比べて限度があるという問題があります。それでも宿泊施設をもっと増やして滞在化させるという方針にするのかということです。それから、旅行会社にヒアリングした結果をみると、旅行会社がつくるパッケージは、他の観光地、箱根とかに泊めているようですが、それが決して悪いわけではありません。旅行会社の宿泊客だけがお客さんではないですし、個人でも静かに泊まりたいという方もいるでしょう。鎌倉は、パッケージ旅行に対応した宿泊施設がないのが現実ですから、旅行会社のパッケージに載るような大規模な旅館を増やすのではなくて、個人の方に対応した滞在施設が鎌倉にできればいいと思います。最近では、京の町家に泊まってみたいという個人の方も増えています。また、一方で質の問題もあると思いますが。

委員：

以前、世界遺産のシンポジウムで、今後、観光客をどうするのかという話がありました。これだけ町の中心部に近いところに人々が暮らしていて、住居スペースが密接しているという中で、これ以上観光客を増やすとなると、住んでいる人たちも腹をくくる必要がでてきます。また、箱根町のように、温泉があって、逗留することで癒されたり、泊まる魅力があれば、宿泊客も増えると思いますが、鎌倉のまちには、夜になると結構早く暗くなってしまって、日暮れとともにまちがクローズしてしまうようなイメージがあるので、泊まって、本当に満足度が高い逗留をしていただけるかということ、まだ無理があるかなと思います。

委員長：

鎌倉で、どこの時間帯を見てほしいか、という議論だと思います。本当に夜を見てほしいければ、箱根町のように夜泊まっていたらいいと思いますが、早朝や昼間をみていただいて、市民の生活や文化に触れていただければ、必ずしも夜宿泊していただかなくてもいいかなと思います。以前、基本計画を議論していた時も、宿泊は地域に任せて、観光客数

を増やさなくてもいいから、質の高い観光客に、昼間の滞在時間を1時間でも2時間でも増やしていただくよう、努力をして満足度をあげることが戦略としてはいいのではないかと、という議論の経緯もありましたので、宿泊のところはアクションプランの中であまり触れていません。

あと、副委員長が言われた中で非常に重要だなと思ったのは、旅行事業者をターゲットとしたパッケージツアーをどこまで重視していくのか、また、自分で手配をしてアレンジしてくる個人観光客をどこまで大事にするのかというところを戦略として考えていく必要があると思います。ただ、そこをアクションプランの中に入れていくのは容易ではありません。

副委員長：

それは前回のトイレの問題で確かでした。旅行会社がインバウンドの外国人あるいは国内のお客さんに対して、バスで鎌倉を観光させてくれるようなものは、重要で大切だとか、旅行のスタイルやトイレなどもまとまっていなければならないという議論がありました。観光客の方に、この環境を大切にしながら、まちの中をまわっていただくのが大切だと思います。ただ、便利にするために、全ての道や階段などを広げたり、対応すればいいということではありません。難しいところです。

委員：

例えば、横浜、藤沢と、もう少し連携していけると良いのではないのでしょうか。先ほどの夜の話もそうですが、鎌倉で晩ご飯を食べても30分で横浜へ帰れるとわかれば、横浜の中華街で並んで食べるよりは鎌倉でおいしいご飯をしっかりとした雰囲気の中で食べて、30分酔いを醒ましながら帰るということもできます。広域の観光のところに、神奈川県、湘南地区、鎌倉、藤沢とありますが、その他に逗子、葉山も含めたらいいと思います。葉山などは宿泊するところが多いですから、タクシーで何分で帰れますよ、とわかればいいですね。これらが、アクションプランのチェック結果にどのように関わられるかと思いますが。

それと先ほど民泊という言葉が出てきましたが、お寺は泊まれるのですか。（「泊まれます」との声）今、世界遺産の熊野古道にある高野山の宿坊では、心の癒しを求めてとか、健康になりたいという若者が泊まりに来るそうです。そういうのを増やしていくと、これがアクションプランのどこに直接入るのかわかりませんが、鎌倉らしくていいと思います。

委員：

副委員長の町家の体験とか、委員長の質の話で、質の部分を高めることをしたい、という気持ちは皆さんお持ちなんですけれども、具体的に見えてきていない部分があると思います。ですから、「鎌倉らしさの再認識と鎌倉らしいもてなし」のところにもう少し質を高める動きをする方が良く、ということを入れるべきだと思います。

観光協会でもまだ具体的になっていないのですが、文化体験のできるものがあると良いです。例えば、鎌倉まつりの時に、夜間のライトアップを文学館と長谷寺、光則寺、高徳院で実施し、面のかたちにして滞在時間を延ばすということもしました。その結果、夜のお食事も、長谷地区では良かったと思います。それ以外にも文化体験として、特別拝観を

何コースか行いました。普段は見られないようなところをツアー募集したところ、評判が良くて一杯になりました。このような文化体験をこちらでもっと作っていくような取り組みが大事だと思います。

9月に鎌倉市観光協会が主催をして、観光キャンペーンを行う予定でいます。湘南新宿ライン沿線の駅にミス鎌倉を連れて行って、鎌倉への誘致を行うのですが、PRをするにあたって、「鎌倉には何があるの?」ということが問題になり、コンテンツの部分が弱いことがわかりました。そこで、3年前から行われている鎌倉芸術祭、これは当初、鎌倉ケーブルテレビの記念事業ではじまり、その後、鎌倉市文化振興財団が関わって、鎌倉である一定の期間、様々な芸術文化のイベントを開催して地元の方も外の方も楽しんでいただきたいと、続けてきたものです。今年度は、鎌倉市文化振興財団の主催となりましたが、今は準備を進めていて、通常は2週間のところ、今年は10月、11月と長い期間を予定しています。その期間に集中的に催し物をして、建長寺さんなどの宝物風入れなどもその一環として参加していただきますが、そういったことを今度の観光誘致キャンペーンでPRさせていただこうかと思っています。今後は質を高める努力を各団体でもしながら、それを広報していくのが大事だと思います。

委員長：

さきほど議論の中で出ました、宿泊とか質の問題、広域での取り組み、その辺の評価については、「目標1-A」で少し整理して書かれたらいいと思います。文化体験やコンテンツ、キャンペーンについては、観光協会や関連する団体を中心に、従来、時間帯や季節的な変動が激しくて、どうやって平準化するかというところ、あるいは谷間をいかに底上げするか、といったところが課題であったので、そういう取り組みとして、評価できるといった見方もいいかなと思います。

委員：

評価できる部分もある、というところですね。

委員長：

そうですね、取り組み始めた、という感じですかね。

さらに、観光客が少ない時間帯とか季節に、さらに滞在時間も含めて増やしていく取り組みも必要になると思います。キャンペーンとかPRについては、「目標1-U 既存観光資源の見直しと新たな魅力を創出しよう」で、先ほどの平準化の取り組みも含めて、書いておくといいのではないかと思います。

副委員長：

「目標1-U」で、「既存観光資源の見直しと新たな魅力を創出しよう」という項目がありますが、「見直し」というのは何か、「新たな魅力」ということは何かをきちんと理解しておく必要があると思います。「既存観光資源の見直し」というのは、駄目だから見直そうということではありません。既存の資源の存在だけでも、非常に知名度や価値が高いものがありますが、さらにそれをもっと知ってもらい、楽しんでもらうというソフトな施策、さきほどでてきた「体験」という言葉、鎌倉の文化体験、自然体験、生活体験とか、鎌倉の体験という一つのソフトプログラムがもっとできるのではないかと。そこからでてくるの

が、交流です。教えてもらうとか、あるいはそういう場に外から来た人が、鎌倉のガイドがやっているような生活者と交流するような楽しみ、ということで見ると新たな魅力は、有名な観光資源をさらに深めるとか、見直しを図るだけではなくて、ちょっとした鎌倉らしい体験とか、魅力あるものがもっと隠されているのではないかと、「目標1 - ウ」でみますと、非常に広い分野で施策を整理されていますが、さらにアートイベントとか、新しい鎌倉の文化を創造しようという一つの活動だとか、鎌倉ブランドの野菜も有名になってきていますし、買うだけではなくて、栽培の体験をさせてくれるとか、そういう眼で見えていくと、いままで観光資源と言われていなかったことでも、全てではないですが、ちょっとした体験ができる仕組みや体制があると、今までにない鎌倉の新たな魅力に繋がっていくのではないかと思います。

余談ですが、庭園とか貴重な資源の清掃とか管理をやっているところがあると思うんですけど、こういうところを外の方と一緒にやると面白いですし、やりたいと言う方も必ずいると思うんです。こういうやり方で鎌倉の資源や資産に触れてみたいと思う方がいるでしょうし、これも体験の一つになるのかなと思います。

委員：

芸術祭で言いますと、一回目、二回目ともに3万人以上の集客があります。その土地の方も楽しめる、鎌倉の魅力を再認識して行って、そして外からも大勢の方に見ただけ。いい意味で利用するという方法です。たとえば、鎌倉芸術祭には食の部門はないですが、周りの商店の方たちがそこをプラスして芸術祭のイベントと連動したり、体験して帰るとか、先ほどの鎌倉ブランドもそうですが、鎌倉ブランドは旧鎌倉から外れてしまっていますが、鎌倉芸術祭で言うと旧鎌倉エリアに大ホールがないというのが、一つの魅力だと思います。逆に大容量に集客して一気にイベントを終わらせてしまうのではなく建長寺や円覚寺のスペースを借りて、鎌倉らしい場所でイベントができるようにすると良いです。その小ぢんまりした狭さが魅力だと思います。

鎌倉ブランドで言うと、鎌倉のたくさんの人たちに出演していただく「We Love かまくら」という番組がありまして、そのコーナーで鎌倉ブランドの季節の野菜を使った薬膳料理を紹介しようかなと思っています。案外、鎌倉に住んでいる人たちは、鎌倉野菜がブームになっていることを知らないのですが、実は鎌倉市内のイタリアン料理店のホームページをみると、鎌倉野菜のメニューがどこにでもある感じで、麻布十番のレストランに行ってもあるくらいで、鎌倉ブランドは今もの凄くヒットしているんです。鎌倉の中で一番ヒットしているかもしれません。それを先ほどから出ている「体にいい」とか「体を掃除する」「気持ち綺麗になる」といった、文化や歴史という側面だけでなく、この小ぢんまりした狭いエリアの中で、清掃して、気持ちも綺麗にして、地場野菜、採れたての野菜を食べてというような体験も鎌倉の大きな魅力になると思います。

委員：

暮らしが入ってくるという事ですか。憧れの暮らしという感じですかね。

委員長：

鎌倉の狭い暮らしを体験させることを少しアピールしたり、従来観光資源化していなかったものを資源化するとか、そういったものについて、さらに努力をして、個別にやらず

に連携して取り組むような仕組みを作りましょう、ということは、先ほどの「目標1 - ウ」のところで少し書いて評価項目に加えるかなと。さらにそこで連携するかたちでPRする、その下の「目標1 - エ」のところに関わってくると思いますけれども、ケーブルテレビやフリーペーパーで暮らしを情報発信するような仕組みを作っていくということについても議論が必要かなと思います。そのあたりのアイデアが何かあればと思いますが、皆さんいかがですか。

副委員長：

情報発信については、先ほどアルバレス委員が言われた中で、大切なのは、鎌倉の生活文化という、ちょっとした体験でもこんないいものがある、こういう新しいものが生まれているということですね。最初からそれで誘客しようというのではなくて、まず鎌倉市民がそういうものを知ってみようというのが、「目標1 - ウ」の項目であり、「目標1 - ア」の「鎌倉らしさの再認識」ということですね。広報するだけではなく、鎌倉といっても広いですし、新しい市民も入ってくる。まずその人たちを盛り上げて活動すると、外から見ても、「そんな鎌倉の体験があるんですか。」と必ず眼が向いてくる。ですから、最初から何千人集めようというイベントで考えていくと失敗する恐れがあるということです。

今、観光の分野では、このような手法を全国展開させようとしていて、大分県の別府温泉では、地域活性化のために「別府八湯温泉泊覧会(オンパク)」というものを地元の旅館の方が行っています。これは、別府の中ではいろんな体験ができるメニューがありますよ、と広めていったのが始まりで、それをNPOなどがメニューを重層化していきました。今では、温泉だけに入って帰っていた人も、街中を歩いてみたいとか、生活体験をしてみたい、という段階になってきています。そうしないと息の長い取り組みになっていかないと思いますので、まず市民に知ってもらい、体験してもらうことが大切だと思います。

委員：

ニーズはどんどん変わっていくと思います。私たちの子供の時代になると、もっとワークショップ的なものが求められると思います。実際、夏休みの1日、鎌倉山で、みんなでケーキやパンを作ったり、最後に鎌倉山から稲村ガ崎に下りてヨガをやったりしました。これは、古都鎌倉とは全く関係ないのですが、山があたり海が近かったりするの鎌倉の魅力だと思います。鎌倉の楽しみ方をもっとプラスしていければいいと思います。

委員：

情報発信については、住んでいる人はこんなに楽しんでいますよ、みたいなところも発信できるツールがあるといいと思います。鎌倉にはミニコミ誌やフリーペーパーも結構ありますが、情報の一元化のシステム構築はWEB上のリンクになっていくかなと思います。観光協会のホームページもかなりアクセス数は高く、リンクもいろいろ貼ってありますし、市の観光課のホームページも非常に質が高いです。ですけど、各々が独自でやっていて、リンクだけは貼っていますよ、みたいな感じがします。お互いの役割分担というか、効率よく様々なイベントを取り込めるような、有機的な連携が今後は必要かなと思います。ですから、チェック項目の部分は「推進していくべきである」くらいの感じになっていくと思います。その辺を構築していく努力はしていますし、それぞれ良くなっています。それでも、鎌倉として統一したサイトがあるといいと思います。

副委員長：

今のお話は、新たにサイトを立ち上げるのか、という手法の問題になりますが、その前に先ほどからでてきているような観光協会と観光課のサイトに「鎌倉はこんなことをやるぞ。だから皆さんもきてください。」といった生活情報まで取り込まれる仕組みになっているかということでしょう。情報を一元化するというのは、今までの観光資源や観光イベントだけではなく、生活情報を含めて集約する仕組みを作るということで、作るだけではなく、メンテナンスを行う必要もあります。それを誰が行うか、というと体制の話になってきます。

委員：

ポータルサイトは結構あります。きちんとした良いものがあります。観光協会からリンクもしていますが、観光協会が全部取り込むのは人的なこともあり、なかなか難しいです。例えば、「こんな生活情報ならこういうサイトに行くといいよ」みたいな紹介が観光協会のサイトからできるといいと思います。民間のポータルサイトでもきちんとしたところはたくさんありますから。

委員：

観光協会のホームページ、観光課のホームページいずれもアクセス数は相当あるので、そこから「いきいき、わくわく、どきどき」みたいなバナーを作って、リンクさせるといいですね。面白いホームページを作っているところは、小さい会社が多いので、事業者の支援に繋げることができるし、より鮮度の高いものが提供できると思います。ちょっとした仕組みをつくるのが大切で、今は何ヶ月に1回見に来ている人でも、新しい情報が入っていれば、子供や孫と一緒にいこうかなと思ってくれる。そういうものになっていくと分かりやすく面白いです。

委員長：

ここでは、情報の提供や管理の仕方をこうしたらいい、という提言は難しいですね。我々が推進体制の個別検討部会の中で、情報管理したり、新鮮な情報を提供したりするような仕組みを検討する部会を作ってはどうか、と言えらると思いますし、本部に提言できると思います。

委員：

「目標1 - イ」の「障害者、お年寄りなど、決め細やかな配慮を」のところですが、これはタクシーなのかなと。質が高いとか、個別に対応するとかにリンクしてくると思います。例えば、京都ではハイヤーを手配して、自分たちでピックアップして観光することが流行っています。鎌倉にそういうものがあるかはわかりませんが、観光客に受け入れられているようです。

委員：

鎌倉にもあります。1日貸切りでいくら、案内もします、というのがあります。

委員：

そういうタクシーを上手に使っていければと思います。今はガソリンも高いですし、車よりもタクシーを必要な時に使う方が安いんです。特に鎌倉ではタクシーを上手に使えば、皆さん楽しんで帰っていただけだと思います。

副委員長：

今言われた話に近いのですが、「目標1 - イ」と、「目標2 - イ」に跨ることで、施策で言うとバリアフリーと観光の話ですが、ユニバーサル観光とか、ユニバーサルツーリズムといわれる話です。今までの取り組みでいうと、「安全で快適にまち歩きができるようにしよう」というところに、いろいろな意味で防災を含めてユニバーサルデザインとして取り込まれていると。特に観光の場合ですと、車路にしる、鎌倉の歴史的な資源とはバッティングするので難しいところがありますが、ユニバーサル観光に対応したソフトな施策をもっと充実させていく必要があると思います。

例えば、階段があるけれども、ここは歴史的な価値があるからこれを車路にはできない。ここに障害者のかたが来られたときには板を渡すなど周辺の方が協力して、暫定の車路を作って通れるようにしてあげる。このような体制を作って、誰もが鎌倉を楽しめるようにすることは大事ですし、やれることは多々あると思います。行政では、交通バリアフリーを行っていく必要がありますが、どうしてもハードの部分はお金がかかるし限界があります。鎌倉は資源なり知名度なりがある成熟した観光地ですから、それを補うようなソフトな取り組みをしてもいいと思います。

委員長：

交通の分野で、交通安全総点検というものがあります。これは、どこの地区がどれだけ安心して通行できるかということ进行调查するものです。一度、鎌倉市でもユニバーサルツーリズムの観点から、市街地全域を車椅子でどれだけ移動できるか、足の不自由な方がどこまで観光できるのか、といったことを総点検する仕組みもあった方がいいかなと思います。点検ができれば、安心して観光していただけますよとPRして発信していったらいいと思います。点検していくと、道が狭いところやバリアがあるところが既に観光資源になっていて、ハードを変えていくのも難しいところがでてきます。こういうところは、ハードを変えることはできないので、ソフトでどこまで対応できるとか、一つ一つ点検する仕組みを作ってください、1年から2年かけてやってもらえると良いと思います。また、それを安全・安心部会でやっていただきたいのですけれども、そこを評価委員会の中で提案していくのもいいかなと思います。

委員：

私もユニバーサルツーリズムの観点は重要だと思います。最近、各地で子供向けのワークショップが多く開催されています。企業や公の団体を問わず、このような子供向けのイベントを行うときは、セキュリティを重要視しています。都心のコンベンションホールでは、その他、バリアフリーの設計や誘導サインの配置などがしっかりしていますけれども、野外の鎌倉観光の場合を考えると、「目標2 - イ」の「安全で快適に」では、特にお年寄りや子供に関して議論の余地があるでしょう。

副委員長：

ユニバーサル観光やユニバーサルツーリストというのは、障害者手帳を持った方だけではなくて、一般のお年寄りも含めての話になりますので、非常に現実的な問題です。今の子供の話もそうですし、外国人だってそうです。そういう観点で広げていきましょうということと、もう一点、障害者の視点からのバリアフリーに関する観光地の情報です。旅館でも階段の情報とかを出したがるんですが、障害者の方の立場だと、ここまでは車椅子の対応ができます、ここから先は今の時点では無理です、というように、「出来ない」という情報もはっきり出して欲しいそうです。そうすることにより、どこまで自分がまわれるのかがわかって安心して観光することができる。それを健常者と全て同じようにといてもすぐには無理なので、このような情報を開示してもらうことが逆に観光に出かけるきっかけになると思います。

委員：

鎌倉のYMCAでは、十数年前から、車椅子とともに歩む会というのをやっていて、前回もお話しましたが、車椅子マップを2回くらい改定していて、どういうことができるかということもやっています。そういう部分と連携することが大事だと思います。また、この会は、障害者と健常者が一緒に旅行を年に何回か行っているのですが、中根副委員長がおっしゃったとおりで、受け入れてもらえる宿がなかなかわからないのです。今は情報とソフトの部分でカバーをする考え方が一番現実的だと思います。車椅子とともに歩む会では、障害者1人に健常者が2人つきますが、いつもそうすることは難しいですね。ですから、その場所に行ったときに、ボランティアなどが付くような組織ができるといいですね。鎌倉ならではの地形もあります。

副委員長：

それは観光分野の人がみんな出てきてボランティアで付き添いなさい、と言うことではなくて、福祉分野にそのようなボランティア団体があると思うので、観光協会などが、そういう分野の方との風通しをよくしておくことが大切と言うことです。

委員：

「はとの会」など団体はたくさんありますので、社会福祉協議会との繋がりは今まであまりなかったのですが、今後はユニバーサル観光という意味で連携を強めていければいいのではないのでしょうか。

委員長：

非常に重要なご指摘でした。

委員：

今の話は、「目標3 - ア」にあたるかと思います。また、社会福祉協議会が観光主体かといえば疑問ですが、そういう多様な主体というところで視野を広げていくと、非常に素晴らしいと思います。

委員長：

「目標2 - ア」は、ちょっと議論しづらいところではありますが、「目標1 - ア」と関係するところがありますが、いかがですか。

委員：

本来の自然環境というのがどういうものなのか、という点で思うことは、意図的に作られた風景では観光客は来ないのではないかとということです。鎌倉は自然がずいぶん守られていますけれども、さらにアピールしていくことが重要だと思います。鎌倉の印象としてはリゾートとして捉えることもありますが、リゾートではなくそのままの自然を活かしたいですね。

委員長：

普通、自然景観というと眺望景観などを思い浮かべてしまいがちですが、そうではなくて、先ほどお話のありました自然体験、そういった意味も含めた自然環境かなと思います。そこに生活体験とかも含めて環境を保全しましょうということです。それについては、まだそういう視点になっていないのか、判りづらくて見にくくなっています。この現状のアクションプランのチェックの状況の中で、そこをもう少し見えるようにしていきたいと思います。

委員：

自然環境というのは非常に難しく、いろいろな考え方があります。この鎌倉の三方の山に関して、里山というのは人の手が入って、常に植物遷移の止まった状態の山です。しかし、現状では極相まで行ってしまっていて、スタジイとタブの常緑広葉樹がうっそうと茂り、その下では蔓性の植物が繁茂し、その結果山が崩れやすくなって、仕方ないから市に話してコンクリートで固めてもらって、という悪循環が未だにあります。その辺をなんとかしようとしているのが風致保存会で、ボランティア頼みになっています。

この現状を考えると、鎌倉らしい豊かな自然環境、景観というのはどういうものかを考える必要があります。昔、海から見た八幡宮裏の御谷というのは、もっと小さくて、広葉樹がいっぱいありました。今は、もっさりとした重い感じになっています。最終的に極相になってもいいのですが、鎌倉の里山の風景を大事にしたいです。

桜があって、クヌギがあって、栗があって、紅葉がある。これを守っていくためには、主体をはっきりさせて強化していく必要がありますし、観光に関しても紅葉のある郷土のほうがいいわけです。寺社仏閣はきちんと手入れをしていますから紅葉があるわけです。一方、山並みは紅葉のあるところと無いところがあります。ある程度手が入っていれば、常に葉樹である落葉樹が育つ環境になるのですが、そうでないと全部常葉樹になってしまって紅葉がなくなってしまいます。その辺のメンテナンスをしてくれる一部の人たちが、頑張っている状況です。古谷委員長がおっしゃったように、見えていないので書くところがないのですが。

副委員長：

もちろん自然環境も含めて、鎌倉の景観というのは観光の価値になっていると思います。ただ、鎌倉の自然環境をどのように保全するか、そして土砂崩れを防いで安全にするというのは、ここで我々が議論することではなくて、しかるべき所管課の話になるのだろうと

思います。もちろん自然環境を保全していくのは大事なことです。ここでは、人為的に手を加えています、生活しています、それらにマッチするようなまち並みにしています、看板を設置していますなど、観光に関してもっとこうすべきではないか、という話をすべきと思います。確かにおっしゃっていることは現実の課題であると思いますが。

委員長：

その視点でみると、「目標2 - ア」のところに欠けているのは、鎌倉には多様な主体がありますよ、ということが十分に書かれていないことです。そこがまだ評価できる仕組みになっていません。そこが問題であって、我々のアクションプランのチェックの中でも評価できる仕組みを作ることが重要です。

委員：

自然については、やれることと、やっていることがある程度想像できるのですが、前半のまち並みの部分についてどういうことをしているのかというところ、こちらの資料3では商店街のことは出てきますが、人々が暮らしているところのまち並みについてのことが出てきていません。書けないのかもしれませんが、何かそういうものにふれてもいいのかなという気がします。

委員：

いろいろやっているみたいですよ。でも、なかなか成果が。

副委員長：

鎌倉ならば、住宅地も含めて書いた方がいいのではないのでしょうか。

委員：

最近「いろはの会」が、子供たちに分かりやすいように鎌倉時代のまちの様子や戦後の鉄道が通ったときの様子、そして今を絵本にして紹介しています。鎌倉の景観を守るためにこういう決まりがありますよとか、そういうのを分かりやすくしています。

委員：

できたばかりですね。これは景観課と市民の方たちが連携して、景観課が条例とか景観法に関することを細かく分かりやすく説明して、市内のボランティアあるいは建築家の方たちが、そういったまち並みと歴史を紐解いて、鎌倉にはどういうまち並みがふさわしいのだろうという問いかけをする。そして、それを守っていく意識の高さを市民の方に持っていただくことも目的の一つです。

副委員長：

まち全体をみても、1,800万人もの観光客が来るようなところで、鎌倉は良くやっていると思います。先ほどの安全面も含めて、きめ細かい鎌倉の景観ということについても、市民や外の方に対してソフトな部分をもっと浸透させていくことが大切です。

委員：

先日、世界遺産の24史跡の撮影にまわっていたのですが、手入れされている木がたくさんありました。木を手入れするのもお金がかかりますし、せっかく間引いたのなら、有効活用して、木を使って子供たちに表札を作らせてみるのも面白いと思います。子供たちにこの木は大事な世界遺産候補の場所に生えていたんですよとか教えることで、子供たちも、山を抱えている住民の皆さんも意識がでてくるとと思います。そのような仕組みで景観を守ることもできるかなと思います。

委員：

鎌倉の方は景観に対して意識も高いと思います。だから、当たり前のこととして書かれていないのかもしれませんが、もっと自慢してもいいのかなと思います。

委員：

7月の終わりに、田辺市の観光コンサルタントをしているカナダ人の方に、外国人から見た鎌倉について講演会をしていただきました。講演会の前の3日間、鎌倉に泊まって来て、ずっと案内をしていたのですが、やはり評価できる面、もう少し改善して欲しい面がいろいろありました。案内板などは非常に良い評価をいただいたのですが、写真に撮ろうとすると後ろに電線が写りこんでしまうので、「何で電線がここにあるの？」という質問がありました。それから、お寺の土留めにプラスチックが使っていて「何でプラスチックなの？」とか、いろいろ細かな指摘がありました。こういうところに外国人の景観に対する感覚の鋭さを感じました。

委員：

先日、歩道橋の上から若宮大路を撮影したのですが、電線が邪魔してどうしても一直線にのびた風景が綺麗に撮れなかったです。

委員：

若宮大路は電線の地中化をしているのにも関わらず、あとから有線を設置しています。景色を気にする、そういう意識を高めるような部分をもっと啓発できるようにしていく仕組みがあるといいですね。

委員長：

外国人の視点からするとそういうのが異常に感じるのでしょうか。景観に関していえば、既存の取り組みがかなりあると思いますが、観光と連携して取り組む仕組みが今までは十分ではなかったので、それについてお互いにフィードバックするような仕組みの情報を作りましょうというのが一つです。それは、新たに部会を設置しなくても、景観関連と観光の部署でやりとりできるような仕組みがあればいいと思いますし、民間レベルでも取り組めるところは取り組めますので、そこは今後の課題であるという評価になると思います。

副委員長：

公的な条例や景観施策など、もの凄くたくさんの蓄積があってやってこられています。また、さきほどの若宮大路の話でも、地元協議会とか、いろいろ書かれています。やはり大事なのは、そこに住んでいる方が意識を高く持つことです。そして、まちの景観を維

持する活動を後押しするなり、盛り上げていく必要があります。

委員：

保全とは常に意識し続けることですからね。

委員長：

今日は1時間半くらいかけて、アクションプランのチェック結果について、目標3については少し時間が足りなかったところもありますが、ある程度整理できたと思います。これを踏まえて、次のページになりますけれども、「今後の課題・提言」の文章の書き方もかなり具体的に意見を出していただいたところもあると思います。

例えば、「情報共有とか情報発信のシステム」や「市民の理解を深める取組みの充実」の仕方であっても、既存の景観や福祉の取組みとの連携を強くしていく中で、情報共有や情報発信をしていくとか、あるいは市民の暮らしの体験についてももう少し情報発信をし、理解を深めていくとか、もう少し具体的にかかると良いと思います。

「点から面への連携強化」についても、文化施設や文化交流だけでなく、例えばキャンペーンとかコンテンツの話であったりとか、暮らしの問題もありました。その辺も含めて連携をどうやっていくのか、既存の観光資源でなかったところを観光資源として取り組むことによって、どうやって面に変えていくことができるのかを書いていけるのかなと思います。

あと、いくつかアクションプランの資料を見ていて、あるいは皆さんからの情報、発言を聞いていて思ったのは、個別のイベントや個別の事業に関しては、何万人来たとかという情報を持っているんですね。その辺の情報を「3. 各種統計データの充実」に拾えないかなと思いました。ただ、全部拾う必要はないのですが、ある程度拾えるように各団体と連携していったほうがいいかなと思います。

委員：

芸術祭などの市が後援されているイベントは、後で必ず人数を報告するので、例えば年度末などに、表にまとめるとある程度おおまかな数値が拾えるかなと思います。

委員長：

あとは「観光を横串とした地域連携の体制作り」ですが、ここはかなり重要なと思います。観光協会を中心として、どうやって仕組みを作るかとか、どこまで組織を拾っていくかということも含めた体制作り、この辺は牧田委員にもアイデアを出していただきつつ、もう少し具体的に書いてもいいかなと思います。

委員：

確かにその辺が大事な部分だと思います。個別部会ができて、うまく機能すればいけるのではと期待しています。鎌倉まつりなどは来年度以降、既存の組織を取り込んだ実行委員会方式を目標にしていますが、まずは個別部会の活性化というのをしていただいたほうがいいと感じます。花火大会は、個別部会にして成功したということで、そこは評価できます。やはり個別部会の活性化がキーだと思います。

委員長：

立ち上げるだけではなくて、どう活かしていくかということですね。

委員：

シンポジウムの中身は大体決まったのですか。

事務局：

基調講演の先生など、出演者を現在調整しています。

委員：

市民が楽しめて、主体的に参加できるような中身にしていだけたらと思います。

事務局：

今回はシルバーボランティアガイド協会の協力を得まして、いくつかのコースを歩いていただいて、その方たちにシンポジウム参加していただくようなかたちになります。まずは体験していただくことから入るかたちです。

委員長：

各部会の活動報告も行うのですか。それを含めて考えていただけるとありがたいです。

さて、時間も超過してしまいますので、まとめに入ります。今日は、アクションプランのチェックであるとか、課題と提言については十分に議論できませんでしたが、ある程度整理できたと思います。これを持ちまして今後議論していきたいなと思います。

今後の予定等について、事務局からお話していただければと思います。

事務局：

今日はいろいろご意見をいただきました。これらについて、私どもで整理を行い、委員長とも調整させていただきまして、最終案というかたちでまとめをさせていただきたいと思います。まだ、若干の時間がありますので、今日お話いただけなかったご意見等がありましたら、後ほど事務局へお伝えいただければ、それも参考にしてまとめたいと思いますので、よろしくお願い致します。

委員長：

欠席された委員については、何か個別に意見をいただくのですか。

事務局：

個別に連絡して意見を伺います。

委員長：

それでは、事務局と委員長と副委員長とで最終案を検討して、次回に提示できるようにしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

4．その他

(1) 次回日程確認

委員長と相談の上、次回は10月3日(金)の10時開催となったことを報告し、了承を得た。

(2) その他

委員長：

「その他」は何かありますか。よろしいですか。

それでは以上を持ちまして第4回の委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。